

町では、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」の取り組みを進めています。町や地域が行うこの取り組みについて、毎月お伝えしていきます。

【歴史まちづくり推進室 ☎ 585-2967】
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



“石のまち国見”を再発見!! 「石工(ロック)フェス in 石蔵 2017」より

今号では、9月9日に開催した「国見お宝再発見 Vol.2『石工(ロック)フェス in 石蔵 2017』の様子より、国見石・石蔵の魅力、活用についてお伝えします。

～国見が誇る石工の技術! 石工座談会～

国見石は柔らかく材質が均一であり、加工がしやすいことが特徴です。昭和30年代後半頃より、大谷(栃木県宇都宮市)の最先端の機械技術を取り入れ、大量の切り出し・加工が可能となりました。石蔵は町内一円に普及し、その技術の高さから県内外より発注を受け建築していたということです。



▲左から伊藤一敏さん(国見)、三の輪俊幸さん(国見)、引地兼二さん(高島)

会場: 旧小坂村産業組合石蔵
(JA Fukushima 未来小坂支店内)
現存する町内最大規模の石蔵!



建築構造や規模が希少であり、石造建築技術の発展と石蔵の普及に貢献した建造物として価値が高いことから、平成28年8月に、国登録有形文化財として認定されました。町内に現存する500棟を超える石蔵は、町固有の歴史的な景観を形成しており、町ではこれらを活用した取り組みを進めています。

～石切り場・希少な石蔵を巡る～

国見石は江戸時代末期から昭和40年代後半まで採掘されていました。また、町内には特殊な構造や規模を



▲かつての刈型が残る森山字東国見の採石場跡



▲大型で希少な構造の大木戸宇宮原の石蔵

持つ石蔵が多くあります。採掘当時の様子や建築構造の特徴について、郡山女子大学長田城治先生に解説いただきながら巡りました。

～国見石・石蔵の活用の可能性を探る～

国見石は火に強いという特徴があり、昔から囲炉裏やかまどに使われてきました。また、今回はミニコンサートを開催し石蔵の音響について体感していただきました。みなさんのお宅にある国見石・石蔵も新たな命を吹き込み、活用してみませんか。



▲むらなく短時間で炊き上がる国見石のかまど



▲音響・防音効果が期待できる石蔵の活用



▲400度の高温で焼く国見石のピザ窯



夢先生
元ハンドボール日本代表キャプテン
東 俊介 さん

JFA(日本サッカー協会) ところのプロジェクト事業「夢先生」が9月21日、国見小学校で行われ、5年生が参加しました。ハンドボール日本代表として活躍した東俊介さんが「夢先生」として登場し、ゲームや夢トークを通して、夢を持つことの大切さを伝えました。



歴史まちインフォメーション

第9回国見町歴史まちづくりシンポジウム 「地域の文化遺産を活かした歴史まちづくりに向けて ～あまり知られていないけれども、実はすごい国見の話～」

国見町のもつ地域資源を再発見し、観光・地域コミュニティ・教育などに活用するための方向性を考えます。ぜひご来場ください。

◇日時 10月14日(土) 午後1時から午後5時まで

◇場所 観月台文化センター ホール

◇講演者等

民俗研究家 結城登美雄氏、株式会社グリーンシグマ 梅嶋修氏、文化庁文化財調査官 村上佳代氏、弘前大学 平井太郎氏 ほか

くにみ幼稚園 (年長組)



小さな天才たち